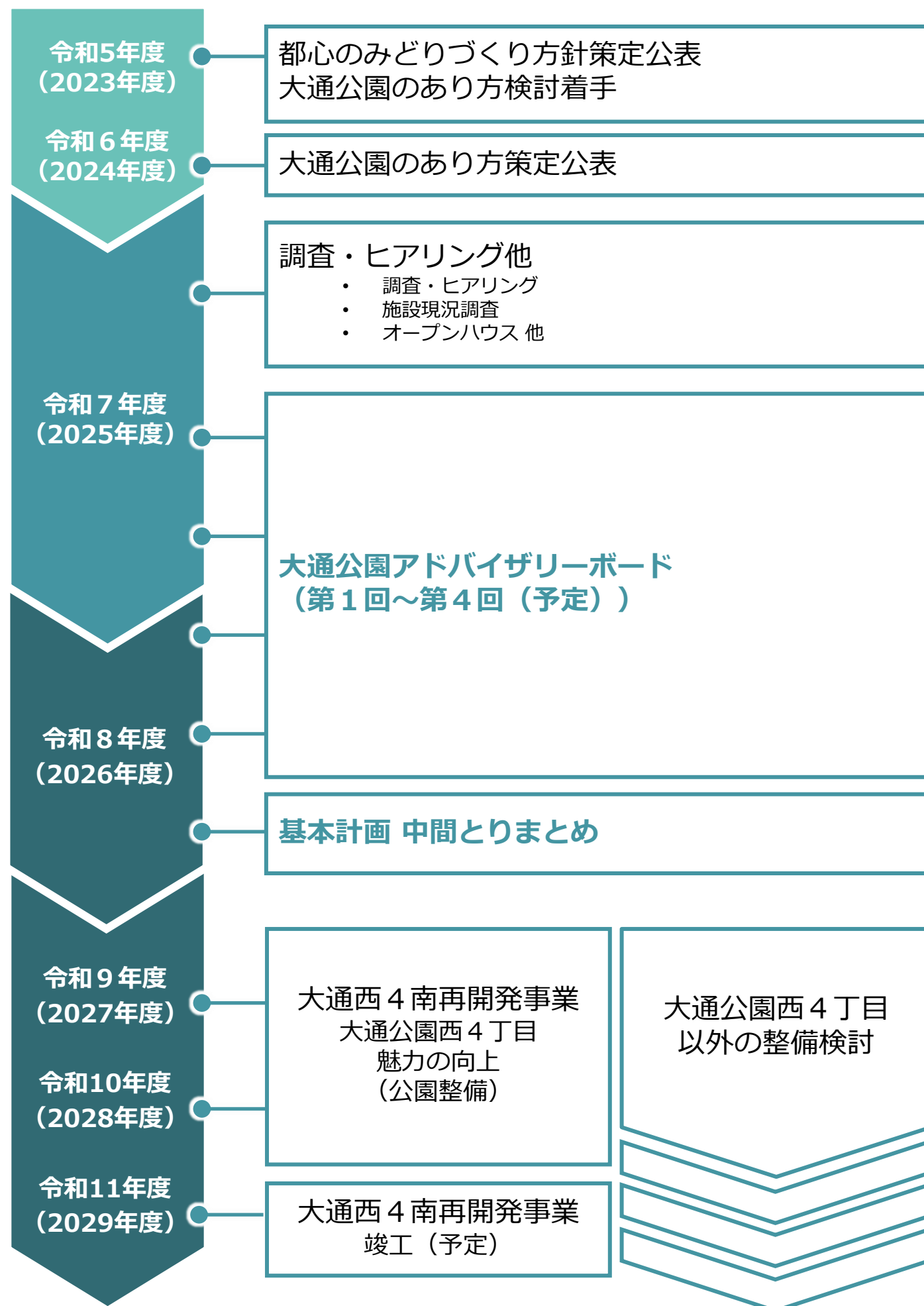


これまでの議論の振り返りと今後の進め方

令和8年6月29日

札幌市 建設局 みどりの推進部

(1) これまでの検討状況と今後の検討プロセス



大通公園アドバイザリーボード 議論項目・進め方

令和7年11月20日

第1回 アドバイザリーボード

<主な報告事項>

- ・ 樹木調査、簡易診断、施設現況調査 (5月～8月)
- ・ オープンハウス (9月)

<主な議題>

- ・ 検討の方向性について
- ・ 今後まとめていくべき各種計画とその方向性について
- ・ 本アドバイザリーボードの進め方について

令和8年1月16日

第2回 アドバイザリーボード

<主な報告事項>

- ・ 第1回アドバイザリーボードにおける意見等について

<主な議題>

- ・ 基本計画の考え方について
- ・ 整備および取組のイメージについて

第3回 報告・議論項目

令和8年6月29日
(本日)

第3回 アドバイザリーボード

<主な議題>

- ・ 基本計画 中間とりまとめ (案) について
- ・ 西4丁目における取組と整備イメージについて

令和8年8月頃
(予定)

第4回 アドバイザリーボード

<主な議題> 基本計画 中間とりまとめ案 公表内容について

オープンハウス後、基本計画 中間とりまとめの公表

（２）第２回アドバイザリーボードにおける主な意見

テーマ	ご意見・ご質問等	事務局回答と今後の方向性	資料 2 における 対応するページ
空間計画	- みどりのネットワークについて、西11丁目は細い矢印で、西13丁目は太い矢印で示されているが、「都心のみどりづくり方針」では西10丁目から西方向の「大通公園西周辺」が重点エリアとなっている 「都心のみどりづくり方針」のとおり北大植物園、知事公館、近代美術館などを含めたネットワークを重視すべき	過去の「都心のみどりづくり方針」との整合を図りながら、表現を修正	P4
	「大通およびその周辺のまちづくり方針」においても沿道街区、道路、公園の一体感をつくりだすと書かれているが、公園だけでなく道路なども含めて計画しないと、まちに向けた滞留空間の実現は難しい - イベント時は広場と園路が広く占用されるため、沿道側の歩行空間をどのように充実できるかが大切 - 一方で、沿道を意識した滞留空間以外にも、公園内では芝生エリアを含め歩行と滞留のバランスを取ることが必要	関係部局と協議を進め関連する施策と整合を図りながら、沿道側の施設配置を検討していく	P9
	- 道路に面した外縁（エッジ）部分の計画が不明確である - 公園の中の計画だけでなく、パークレット化など歩道部分の計画も必要ではないか	既存の施設との関係性を整理しながら、角部分および道路に面する部分での滞留空間の創出を検討する	P6
	6ページ開放性の創出を示す青色矢印は、地下出入口等の建築物があり物理的に不可能な箇所がある	- 開放性の創出については、道路の状況や人の流れの多いところなど、機能的に示している - 詳細な施設検討を進める上では、物理的な制約を考慮して計画する必要がある	
	4ページ地歴（水の記憶）の記載について、旧河川エリアは実際には川が無かった場所だと思われるので、資料を確認して欲しい - 水の流れがあった場所も100年以上前のことなので現在は水脈として期待できない - 雨水涵養の必要性は、全丁目で必要な考え方であり、特定のエリアに限定する必要はない	- 水の流れについては、北海道大学が所蔵する古地図を参考にしている - 土地の変遷を伝えるひとつの方法として施設の配置を考えたり、発揮できる機能を検討する	—
	樹林帯にデッキを作るだけでは雨水涵養はできないため技術的に相当な工夫が必要	雨水涵養を促す技術的な工夫を検討する	P10
	- 段差を生かした設計を否定するわけでは良いが、積雪時には安全対策が必要である - 安全対策を行う際も見え目が悪くならないように景観に配慮した方法で行う必要がある	- 大通公園には今もある小さな起伏やマウンドを生かしながら使える空間を創り出していく - 冬の安全対策も含めて検討し、説明できるようにする	P9
	6ページの空間計画について大通公園で何を大切にして行くのか、継承するのかを分かりやすく伝えるためにも、取組の説明は、「東西方向のビスタ」から始まるべき 7ページのビフォーアフターの図があるが、どこがどのように変化しているのか分かりにくい - 大倉山方向の景観のパースも必要ではないか	大通公園が今後どのようになるのか、表記の順番や表現や見せ方を工夫し分かりやすくなるよう修正する	P6～7
	- 景観の軸について、真ん中の中心軸が本来のビスタであるとする - 大通公園の象徴的な空間、上品さ、品格を残すべき - デッキや段差を設けることを先に述べるよりも、何を継承していくか「あり方」で議論したことを示した上で、どのような改変をしていくかという説明の流れが道理である		P6
	- 樹林の下でのデッキ整備は大きな改変であるからこそ、日常とイベントという異なる二つの側面を、どのように一つの空間として調和させるのか、共存できるような「両義性」のあるデザインが求められる - 使われていない空間だからデッキを整備するというだけでは樹林の下がイベント会場になってしまうのではないか - イベントの時にデッキがどう使われるかは、気になるところ	施設の目的や意義を明確にし、施設の使い方については管理運営計画で検討する	P11
	6ページの空間計画に書かれている①～⑤の取組をどのように各丁目に配置するか整理が必要 - 全体の統一感を保ちながら、各丁目の個性を出さないといけないが、なぜその場所で取組を行うのかは、現状を踏まえながら理由付けが必要	公園や沿道の現状を踏まえた上で、各種の取組をどこに配置するか整理していく	P9
	- ベンチ、水景施設などが透け感やビスタとどう繋がるか整理が必要 - 見通しの良いみどりの創出などが空間計画とどう繋がるか明確にすべき	個別計画と空間計画の繋がりを整理する	P9
	沿道ビルの建替えでは、屋上などに視点場が設けられているため、みどりが多く見え、公園らしさが出るような上方からの公園の見え方（緑視率等）も意識すべき	- 高木が沿道のビルの視点場等からどのように見えるのか意識する必要がある - 樹木自体の生育や維持管理の観点からも望ましい高さがどれくらいか検討する	P8
	今後、長い年月を考えるとボランティアが減り、人件費や資材費が上がることを踏まえて、維持管理に手間をかけ過ぎずににぎわいや景観を保てるように、管理のしやすさ、お金のかからない持続性を考えるべき	※持続可能な管理運営を前提とした、施設計画や管理運営計画を検討する	P11

（２）第２回アドバイザリーボードにおける主な意見

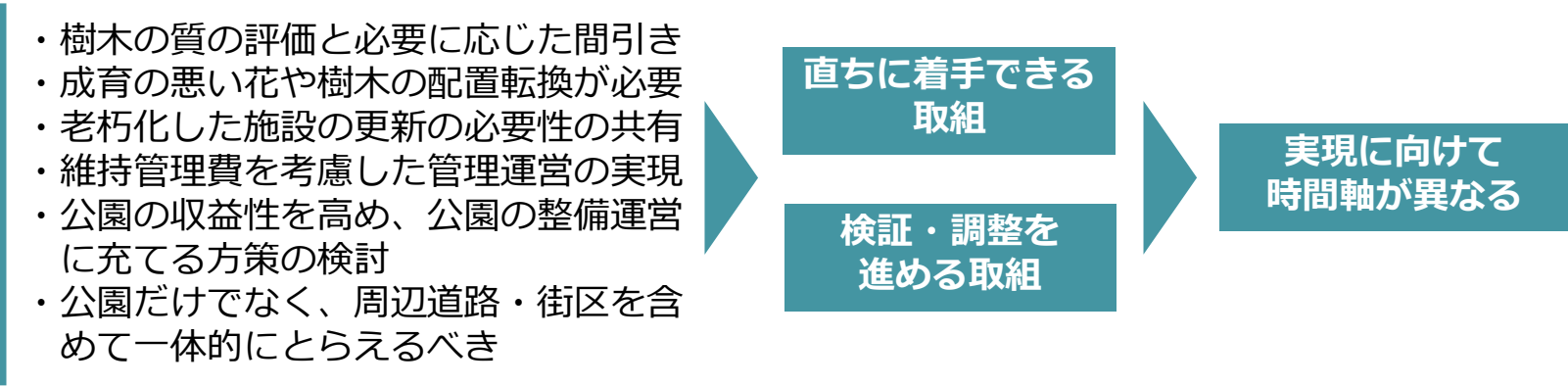
テーマ	ご意見・ご質問等	事務局回答と今後の方向性	資料 2 における 対応するページ
植栽計画	単純に樹林帯内にデッキを作ると、ライラックが植えられなくなり 大通公園を象徴する植物が半減するが、実際には、南側のライラックは日陰でほとんど育っていないため、樹木の質の評価を行い、場所を上手に選ぶことが必要である	樹木の状況や生育環境を分析しながら、デッキの範囲を検討する	P7
	8ページに記載がある現況の芝生植栽基盤は、火山礫ではなく砂（サンド）ではないか - 火山礫である場合、30年経過していると荷重等により劣化している可能性が高く更新が必要	- 現在の植栽基盤について図面等を確認したところ、西3、4、5、8丁目は、（山砂+火山レキ）×土壌改良+土木シート+砕石、その他の丁目は（火山レキ+原土）×土壌改良であった - 芝生張替時に、深さ30cmほど土壌改良材を追加しており、張替えが多い西5丁目以东については、平成初期の基盤がそのまま保存されていない	－
	- 段状の立体花壇は管理費が多くかかるが、維持管理費や管理スタッフが増やせない現実を踏まえた計画にすべき - 平面花壇は質を調整することで何とか維持できるが、立体花壇は存在感が強く質の調整が難しく維持が大変	立体花壇はステージの背面を利用する形であるが、花壇を持続的に維持できる仕組みも検討したい	P7
	- 平成の再整備時に樹林下にすべて芝を張ったが、維持することが難しく、芝刈手間がかかる - 大通公園西3丁目などでカナリーキヅタの植栽試験を実施している - 維持管理手間や雨水の涵養のためにもグランドカバーへの転換が必要	樹林帯の地面には、耐陰性等が高く生育が期待できる地被植物を一定程度使用する計画を検討している	P7
環境計画	9ページの「土地利用の観点」から西6、7、11丁目の噴水を改変・廃止とあるが、「土地利用」という言葉はどのような意味で使っているのか - イベント利用だけでなく、日常利用や普段使いにも配慮した上で施設の考え方を整理し、さまざまな使われ方を両立する（両義性のある）デザインを考えていくべきではないか	- ここで示す「土地利用」とは、「公園の使われ方」という意味で使っている - より多様な使い方ができるよう、フレキシブルな使い方を検討するために、一部水景施設の見直しを含めて公園全体で水景施設等をどうするか考えている	P8
	グリーンインフラで雨水の地下浸透を謳っているが、浸透した水はどこへ行くのか地下街等への影響は心配ないか	- 地下街等の躯体はあるが、現在も一定程度、雨水の地下浸透はされているが影響はないと考えている - 大通公園一帯の地盤は礫層で、最終的には原地盤に浸透していく	－
	12ページのグリーンインフラの機能の強化、緑のネットワーク、エコロジカルネットワークについて、周辺とどういう繋がりをつくって行くのか、具体的に示していくべき	※ 環境計画で検討をする	P10
管理運営計画	4丁目や3丁目は、駅前通からの公園への玄関口であり、アクセス性の良さを考えると、イベント時の案内所にもなり、平時はワークショップスペースにもなるようなビジターセンターなどもあり得るのではないか - 仮設物の設置や撤去を考えると、常設物と仮設物の考え方を整理し、空間の使い方を考えてみてはどうか	※ 施設計画および管理運営計画で検討する	P9、P11
	- 管理運営計画には、イベントだけでなく日常的な公園管理運営に関しても記載すべき - 管理事務所とインフォメーション兼売店が西7丁目、公園ボランティアガイド控室が西1丁目、観光部局の観光ボランティアによる案内所が西3丁目にあり、分散していて公園利用者にとっても不便である - パークセンター的なインフォメーション機能を兼ねた施設等が西1～4丁目にあつてよいのではないか	※ 施設計画および管理運営計画で検討する	P9、P11
	・沿道と公園の一体化やイベントと日常使いのすみ分けを考える時に、一番足りていないのはガバナンスというか ・ボランティアや企業、周辺の関係者も含めて顔を合わせ、情報共有や話し合う機会ではないか	- 平成の再整備時に想定していた使い方と変わってきている状況もある - 施設計画から一歩遅れている段階であるが、持続可能なマネジメントについても検討する	P11
	- イベントによる公園占用について、持続可能な管理運営や整備等への負担や協力をお願いすることを検討しても良いのではないか - 沿道との一体化や日常利用とイベント利用のすみ分けを考える時に、今不足しているのは、ガバナンスというか情報共有であり、周辺街区の関係者やボランティアを含めた意見交換の場の設定などを整備を機に検討してほしい	公園を使ったイベント等による収益を公園の管理運営に還元していく手法について、全国事例を参考に、現在の大通公園の利用条件や使われ方を踏まえて検討する	P11

（２）第２回アドバイザリーボードにおける主な意見

テーマ	ご意見・ご質問等	事務局回答と今後の方向性	資料 2 における 対応するページ
西 4 丁目	・ 西 4 丁目のパースにコンクリート舗装とあるが、グリーンインフラを謳いながら水を通さない舗装は矛盾している	・ イベント設営時の車両動線として耐える舗装を想定した記載であり、透水性のある舗装などを検討する	－
	・ デッキの高さが園路から400～450mm上がっているが、階段部分は積雪により転倒などが懸念される ・ スロープを作ると手すりが必要になり、道路との間に工作物が増え、空間のつながりが損なわれることからデッキの高さ設定と面積、使い方を含めたバランスを検討できると良い	・ 高低差は、樹木の根を踏まれることによる踏圧などから保護するために設定している ・ 現場の高低差を精査し、冬の安全対策を考慮して検討を進める	－
	・ 札幌市の木であるライラックの原点のような吉井勇さんの歌碑があるが、西4丁目南側は日陰でライラックがほとんど育たない ・ 陽当たりがよくライラックが育っている北側へ歌碑を移設して、ライラックの原点として整備すべき	※ 植栽計画および施設計画で検討をする	－
	・ 12ページの公園の断面図ビフォーアフターで、噴水から水が出ていなくて水盤も小さくなっているが、これは何を示す図であるか	・ 断面図は、環境計画で挙げている公園で実現したい環境に資する機能を模式的に示したものである ・ 水景施設の機能や使い方は、今後の施設計画で検討を行う	－
	・ 11ページの彫刻類の分類において、西10丁目の黒田像ケブロン像が「原則移設しないが移動せざるを得ない場合は移設も検討する」になっているが、歴史的な意義を記念し設置された銅像を移設の検討ができると分類することに抵抗がある	・ 彫刻の移設の可能性の分類は、設置経緯や構造から動かせるかどうかを示している ・ 彫刻が持っている象徴性も考慮しながら検討する	－
	・ 西4丁目でも道路に面した外縁（エッジ部分）をどう使うのか ・ 歩行空間として確保するのか、利用されていな部分は緑地として使うことができるのか、雨水を浸透させる帯状のバイオスウェルのような使い方でもあるのでは		－
	・ 15ページのパースで、車道側から登るスロープがあるが、2m歩道から車いすが利用するイメージか ・ 大通北線、大通南線と大通公園が接する2m歩道の扱いが去年からの検討で決着がついていないが、丁目によって歩行動線の必要性について考え方を整理するべきである ・ 冬の大型イベント設営時には、公園が通れないため西11丁目駅周辺は2m歩道が多くの人に利用されているため、使われ方を考慮し、バランスを考えて整理したほうが良い	・ 2m歩道については、関係部局と協議し、関連する施策と整合を図りながら施設配置を検討していく ・ スロープの行き先が2m歩道で良いのか、慎重に検討する	－
その他 冬季の 利用など	・ 世界からの観光客を考えると北海道の観光のハイシーズンは冬であり、世界には緑が多い地域は他にもあるが、200万人規模の都市で豪雪地帯は少ない ・ 雪まつりだけでなく、冬の大通公園について利活用を考えるべき ・ 北3条広場（アカプラ）では、冬の楽しを提供するために、試行的に雪遊び道具を設置して使ってもらってい ・ 管理運営計画では、冬の楽しみ方を盛り込んでほしい	・ 現在もイベントとは別に、大通公園内で雪を楽しんでいる観光客を多く見かける ・ 冬の利用を考えながら施設計画や管理運営計画を検討する	P9

（３）今後の方向性について

これまでのご意見



今後の方向性

- ・ 全エリアに共通する考え方や個別計画の考え方など、委員と議論してきたものを成果としてまとめる。
- ・ 「基本計画」策定としていたものを、「基本計画 中間とりまとめ」として整理する。
- ・ 公園周辺との一体性や民間活力との方策は、今後の取り組み課題とする。
- ・ 第4回アドバイザリーボード後は、オープンハウス等の方法により取組を市民などに周知する。
- ・ 西4丁目については公園全体の考え方、個別計画の考え方をベースとして取組を推進していく。